

3

Once upon a time, there was a temple deep in the mountains where a Buddhist priest and his young apprentice lived.

“Master, I’m going to go out and gather chestnuts on the mountain.”

“All right, but there is a mountain witch living there. You should take these with you in case something happens.”

The priest gave the boy three charms.



5

The boy went into the mountains and started looking for chestnuts. But there were no chestnuts to be found.

While he was trying to find the chestnuts, he went deeper and deeper into the mountains.

“Oh, no. I’ve lost my way. It’ll be dark soon. I need to find a place to sleep.”

The boy wandered in the mountains for a while and came upon an old house.

He knocked at the door.



むかし むかし、とある やまおくの おてらに、
おしょうさんと、わかい こぼうずが
すんでいました。

あるひ、こぼうずは おしょうさんに いいました。

「おしょうさん、おいら、やまに くりを ひろいに
いってきます」

「いいだろう。ただ、やまには
こわい やまんばがいる。
なにかあったときの ために、
これを もっていきなさい」

おしょうさんは こぼうずに
『さんまいの おふだ』を わたしました。



こぼうずは やまにはいると、
さっそく くりひろいを はじめました。

しかし、くりは ひとつも みつかりませんでした。

くりを さがしているうちに こぼうずは、
ふかい ふかい、やまの なかに
はいりこんで しまいました。

「まいったな、みちに まよってしまった。

もうすぐ よるになる。

どこか やすめるばしょを さがそう」

しばらく やまの なかを さまよっていると、
やがて こぼうずは、いっけんの ふるびた いえを
みつけました。

こぼうずは、いえの とを たたきました。

